

2023年 11月 1日

鶴川地域統廃合計画延期・見直し 請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所
連絡先
氏 名

(請願の要旨)

2024年から始まる足掛け6年の鶴川二小の建設工事と統合の同時並行。並びに、鶴川四小児童を三小に3年間寄せての新校舎建設の計画内容の変更と統合の延期。鶴川三小廃校理由である真光寺中学校の2036年廃校計画の見直しを求めます。

(請願の理由)

鶴川二小は、2007年に建増し校舎建設、2015年にエコ修繕約2億円を施し行われています。敷地は、近隣の小学校の中でも狭いです。そこに統合時、600人規模の仮校舎プレハブを建設することは合理的とは思えません。統合は、建設後に行うことが、児童の安全においても適切ではないでしょうか。統合して、プール授業は鶴川中へ移動する、給食も配食では、ただでさえ混乱するのが、更なる負担と考えます。SDGSの観点からも、「町田市がこれから作る学校は、脱炭素に向かない」と答弁していることについても、これから生きる子どもたちの学校建設がそのようなものであっていいのか、大きな問題があります。

鶴川三小の廃校理由である、真光寺中学の廃校計画について見直しを求めます。まず、この計画の際にここまでの「不登校問題」「教員不足」「いじめ問題」は考えられたのでしょうか。教員不足は、待遇改善が必要なのは誰もが分かっていることです。統廃合をすることにより、教員数は減らせますが、教員一人当たりの児童数は増えるので、負担は増えます。そして、不登校問題は喫緊の課題です。真光寺中学が廃校になれば、鶴川には、二中、鶴川中のみになります。真光寺中学の学区域の児童は、どちらの中学も遠くなります。今年度から真光寺中学で行われている「校内支援センター」は、生徒、保護者にとってはとても安心する制度だと考えられます。今、人数の問題だけで統廃合を進めるべきでしょうか。児童数についても、町田市推計表の新しいもので2029年鶴川二中学生数552人15クラス、真光寺中216人7クラスです。学区域変更の検討はされたのでしょうか。鶴川二小と同様に、あまりにも偏りすぎていると見受けられます。2025年から鶴川地域の中学校給食は始まります。セーフティーネットでもある学校の果たすべき役割は大きいものです。

町田市の人口は、とても危機的にあると理解しています。だからこそ、学校というものの役割をしっかりと考えて、魅力ある学校運営を期待して、真光寺中学の廃校計画の見直しをお願いします。